

## 2019 年度 教育研究活性化経費の評価結果について

本経費は、学内予算を競争的に配分し、特色ある教育・研究の活性化等を図ることを目的に平成 12 年度から導入されたものです。若手研究プロジェクト、教育関係プロジェクトに採択された課題については、その研究期間満了の翌年度に評価を実施することになっています。2018 年度に終了した研究課題 (21 件) について、成果報告会を開催するとともに、執行部を評価委員とする評価を実施しましたので、その結果を公表します。

### 教育研究活性化経費の概要

#### 1. 趣旨

本学における学術研究の発展に資する、今後活躍が期待される若手教員及び本学の学術的プレゼンスを向上させ、独自性を出すことを目的とした教育関係プロジェクトに対し、必要な経費を配分する。

#### 2. プロジェクト類型

若手研究	申請額が 100 万程度の申請
教育関係	内容精査後、決定

### 評価について

#### 1. 評価方法について

成果報告書を作成するとともに、成果報告会にて評価委員に対し成果を発表する。評価委員は書面及び成果発表に基づき、評価を実施する。

#### 2. 評価委員

学長、理事・副学長、副学長

#### 3. 評価の観点

1. 当初計画の達成度
2. 教育研究成果

#### 4. 評価の採点方法

評価の観点について総合的に判断し、各評価委員 5 点満点で採点の上、平均点を算出し、以下のとおり、4 段階にて評価結果を表す。

4.0 点以上=A

2.5 点以上 4.0 点未満=B

1.0 点以上 2.5 点未満=C

1.0 点未満=D

<2019 年度評価一覧>

区 分	所 属	氏 名	課 題 名	評 価
若手	機械工学系	青葉 知弥	変形拘束下圧延により集合組織制御した高強度材の開発	B
若手	機械工学系	秋月 拓磨	装着型センサを用いたドライバ状態推定の試み	A
若手	機械工学系	石井 陽介	二次高調波を用いた積層構造中の閉口欠陥の高感度超音波非破壊評価	A
若手	機械工学系	鹿毛あずさ	分子・流体から集団運動をつなぐ微細藻ダイナミクスの階層的理解	B
若手	機械工学系	白砂 絹和	ウェーブレット変換と多変量解析を用いた音声による睡眠時無呼吸症の判別および予備群発見	B
若手	機械工学系	西川原理仁	静電ポンピング機構を利用した宇宙用能動熱制御技術の開発	A
若手	電気・電子情報工学系	岩田 達哉	過渡センシング応用に向けた金属酸化物メモリスタの特性制御	A
若手	電気・電子情報工学系	川島 朋裕	微小ギャップにおける沿面放電観測システムの開発	B
若手	電気・電子情報工学系	後藤 太一	100kW 級スピン変調 Q スイッチレーザーの作製	A
若手	電気・電子情報工学系	谷本 壮	酸素プラズマを用いた DLC 膜の除膜プロセスの基礎特性評価	B
若手	電気・電子情報工学系	東城 友都	1次元構造を起点とした単層カーボンナノチューブの合成と構造評価	B
若手	電気・電子情報工学系	針谷 達	高密度水素フリーDLC膜の3次元高速成膜に向けたCOプラズマの分析	B
若手	電気・電子情報工学系	藤枝 直輝	命令セットシミュレータによる効率的な専用計算システム開発に向けた要素技術	A
若手	電気・電子情報工学系	山根 啓輔	大面積高効率フレキシブル太陽電池開発に向けたIII-V-N混晶の成長メカニズムの解明	A
若手	情報・知能工学系	木村 慧	整数計画問題に対するアルゴリズム開発	B
若手	応用化学・生命工学系	荒川 優樹	室温でツイストバンドネマチック相を示す新規液晶性ダイマーの創製	A
若手	応用化学・生命工学系	伊藤 博光	集積型金属錯体を用いたガス分離サーマルマネジメント技術の開発	B

区 分	所 属	氏 名	課 題 名	評 価
若手	応用化学・生命工 学系	広瀬 侑	高分解能多波長光照射による光スイッチ同定法の確立	A
若手	建築・都市システ ム学系	小野 悠	インド・ムンバイにおけるインフォーマルな水システ ムの実態	B
若手	総合教育院	TAN WAI KIAN	Development of nanostructured iron oxide for Fe-air battery and heavy metal removal applications	A
若手	情報メディア基 盤センター	上野 未貴	創作者と人工知能(AI): 技術科学を伝える機械学習用 創作物データセットの構築	B

(2020年1月15日掲載)